

令和7年度



# 桂林小だより

令和8年1月21日

第10号

校長 加藤 慶一

## 三学期が始まりました！



三学期がスタートしました。学校に再び子どもたちの笑顔と声が戻ってきました。冬休み中、大きな事故の報告もなく、こうして再び全校の皆さんの元気な顔を見ることができて、とても嬉しく思っています。

さて、三学期は、一年間のまとめの学期であるとともに、次の学年や中学校への準備の学期でもあります。

一年生の皆さん、三学期は二年生になるために「自分のことは自分でする」に頑張ってみてください。四月には、新しい一年生が入学してきます。よいお手本になれるように、力をつけていってほしいです。「気持ちのよいあいさつ」の「きらり」を磨くなんか、素敵だと思いますよ。

二年生は、一年生の時よりできることがたくさん増えましたね。時間を守る、先生やお友だちの話を最後まで聞く、友だちと優しく遊ぶなど一つひとつが立派なお兄さん・お姉さんになる力です。難しいことがあっても「最後まで頑張ること」を大切に、チャレンジしてください。

三年生は、中学年になった自分たちが、どんなことができるようになったのか、一度皆で確認し合ってください。できるようになっていることはもっと伸ばしてほしいし、足りないところは、どうすればよいのか皆で話し合い、力をつける努力をしてほしい。「真面目にがんばること」や「やるべきことをすんでやること」、「後回しにせず今努力すること」を大切に、来年の三年生をしっかりと引っ張っていきける四年生をめざしてください。

四年生は、これから学校の中で下級生のお手本になることが増えていきます。あいさつや移動の仕方、掃除や学習に取り組む姿勢など、「自分自身の行動」を意

識してみてください。日々の積み重ねが立派な高学年への一歩になります。一人ひとりが自分らしく色鮮やかに輝ける高学年になれるよう頑張ってください。

五年生は、最高学年への準備は進んでいるでしょうか。これまで、六年生が毎日の学校生活を支えてきてくれましたが、その役割を引き継ぐ番です。六年生がもっている力の中で、素晴らしいと思うものの、それは「まわりを見る力」です。これはリーダーとして大変大事な素質の一つです。この力をもっている人は、少し先を考えて行動することができず、また、仲間が困っていることに気づき、今しかできないことができたり、支え合えたり、支え合えることで一人ではできない成長が生まれたりもします。信頼されるリーダーをめざして、準備を進めていってほしいです。

六年生の皆さん、これまで最高学年として全校の二本となり、リードする大きな役割を果たしてくれました。小学校卒業・中学校入学がすぐそこまで近づいてきています。残された一日一日を、「自分の行動に責任をもつこと」を意識して大切に過ごしてほしいと思います。中学生になれば、今よりもっと自分の行動に責任が問われることが多くなります。だからこそ、一人ひとりがもっと力強く存在し、行動できるように、自分を鍛えてほしいと思います。中学校へとつながる充実した三学期を仲間とともに頑張ってください。

寒い日が続きます。手洗いや早寝・早起き・朝ごはんを忘れずに、体調に気を付けて、毎日元気に過ごしましょう。三学期も、成長を感じられる毎日にしていきましょう。



# 「桂林小子ども人権宣言」を自分たちのものに

一月十六日(金)、各ご家庭に『桂林小子ども人権宣言』を活かした取組について(お願い)という文書を配付いたしました。

桂林小学校には、令和六年度の児童会がつくった「桂林小子ども人権宣言」というものがあり、以降、子どもたちが引き継ぎ、この宣言に掲げる内容を実現するために、児童・教職員がともに取組を続けています。めざしているものは、「みんなが楽しく学び、みんなが楽しくすごせる学校」です。

ところが、子どもたちの生活の中からは、「殺す」「死ぬ」「お前」などの言葉や「中指を立てる」などの行為が減りません。「ム力つく」「ウザイ」「キモイ」「はあ?」等々、聞いていてドキッとさせられる言葉や気分が悪くなるような乱暴な言葉が子どもたちから発せられています。こうした言葉は、普段それほどまで感情が高ぶってはいない、ごくごく普通の日常の中でも使われているのを多く見かけます。しかし、もしも万一、喧嘩などの際に興奮して言い合うなかで、エスカレートしていったら・・・、非常に怖くなってきます。

言葉がもつ本来の意味とおりにつかっているのではないかもしれませんし、もっと違うニュアンスが子どもたちなりにあるのかもしれない。しかし、子どもたちには、つかってほしくない言葉です。

子どもたちが、意味もよくわからずにつかっていたにしても、どれだけ腹が立っていた時に、つかったにしても、言葉づかいとして正しく

なく、お互いに心を傷つける言葉であれば、「桂林小子ども人権宣言」に立ち返り、そんな言葉はつかってはいけないことを教職員一同毅然と示し、子どもたちと一緒に確かなものにしていきたいと思います。

同時に、相手やまわりのお友だちが聞いて、気持ちがいい、気持ちが優しくなれる「ふわ言葉」：「ありがとう」「ごめんね」「がんばれ」「また遊ぼう」「お先にどうぞ」等々を増やしていく取組や、「私は友だちを呼び捨てしない」キャンペーンなどのように「私は◎◎します」と言える仲間を増やす取組、お互いの良さを認め合い居心地のいい環境づくりなどを子どもたちとともに進めていきます。

今回、桂林小学校のこうした状況や取組について、「学校運営協議会」で議論していただきました。委員の皆さまからは、「子どもたちの日常を見ていて思いあたることがある」「子どもたち・学校・保護者だけの問題とせず、地域全体の問題としてとらえ、解決していこう」との意見を頂きました。一月十六日付けの文書の差出名が、学校運営協議会会長と校長の連名となっているのは、そうした経緯によるものです。大変ありがたいことです。

桂林小の子どもたちが、本来の意味で「桂林小子ども人権宣言」を自分たちのものにして、できるよう、私たちは不断の努力を続けてまいります。どうか保護者の皆さま、地域の皆さま、子どもたち・学校の取組を応援して頂きますとともに、ご協力をお願いします。

## 学校運営協議会

桂林校区の地域の方々や育友会の役員の方々と構成される協議会です。学校・保護者・地域がともに知恵を出し合い、協力して子どもたちの成長をはぐくみ、豊かな地域をともにつくっていく「地域とともにある学校づくり」を進めています。今年度も、たくさんの方のグロテスクチャーや授業サポートの派遣、読み聞かせ、防災教育、キャリア教育等々、子どもたちの学びを深めてくださっています。

## 桂林小子ども人権宣言

### 第1条

自分がされていやなことは人にしない

### 第2条

相手の気持ちを考えて行動する

### 第3条

お互いのよいところをみとめあう

みんなが楽しく学び、みんなが楽しく学校生活をおくるために

令和6年12月公布 はなまる児童会

児童会長 佐藤 小野みづ 高橋はな 坂井いつき 日高はな  
佐藤せいの 橋本はるき 野山にこ 藤井中由七



【問い合わせ先】 日田市立桂林小学校 ☎(0973) 24-6081